普及活動情勢報告（平成 27 年 3 月分）

安芸農業振興センター　農業改良普及課

情勢報告

実践効果を皆で実感！「第６回土佐あき新施設園芸システム勉強会」の開催

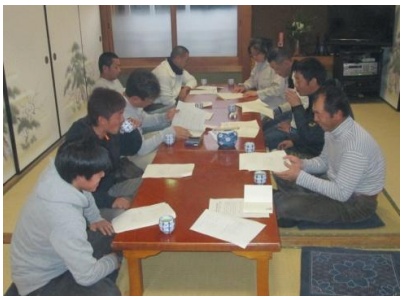
生育調査結果を基に生育状況を
熱心に説明する園主(手前)

2月19日、ナス、ピーマン、シシトウ、ミョウガの生産者20人が参加して「土佐あき新施設園芸システム勉強会」の現地検討会（赤野・安芸）と勉強会（ＪＡ土佐あき本所）を開催しました。

ナスの現地検討会では「環境モニタリングによる地上部管理」「生育調査による管理変更」に加え、独創的な「局所加温」などの取り組みが園主から紹介され、活発な意見交換の場となりました。振興センターは勉強会で日射量に応じた平均温度管理や灌水管理について説明し、パソコンを活用して週単位の分析を呼び掛けました。

振興センターは、次年度も本勉強会の活動を支援していきます。

芸東地区青年農業士定例会開催



「今度の活動はどうしようか？」

2 月 23 日、安芸ブロック青年農業士の芸東地区定例会を開催しました。8 人全員が参加し、27 年度以降の連絡員や活動内容について協議しました。

振興センターは会の内容や資料の作成を支援しました。

27 年度の活動については、12 月に天敵を中心とした勉強会を開催する等を決定しました。また新しい仲間づくりについても、次々に候補となる農家の名前が出されました。

今後も振興センターは、青年農業士の活動が活性化するよう、新しい連絡員と共に青年農業士の確保・育成を図ります。

ナスはこれからが本番！～農業基礎研修講座最終回～

これから収穫最盛期です！

2月25日、振興センターは全8回に及ぶ「農業基礎研修講座」の最終となる講座を開催しました。新規就農者等28人が対象で、うち18人が参加し、「栽培後期の管理」をテーマとして、振興センター職員が春以降の栽培管理について、灌水や追肥の目安、病害対策等を説明しました。

平成 26 年度の本講座の平均参加率は約 70%と高く、また大変好評でした。アンケートの結果、回答者のうち 60%の受講生が第 7 回までの講座内容の半分以上を自身の営農に活用していることがわかりました。

今年度の講座は終了しましたが、27年度も引き続きわかりやすい内容で講習を行い、新規就農者の技術向上を支援します。

集落営農組織の設立を目指して

「設立時、個人所有の機械は？」

3 月 2 日、振興センターは奈半利町が主催する先進的な集落営農組織の視察研修の開催を支援しました。当日は、集落営農を検討し始めた集落の住民、関係機関など 20 人が参加し、四万十町の２つの集落営農組織の活動について研修しました。

参加者から設立時の農機具の整備、オペレーターの確保・育成などについて質問が出され、地域を維持していくためには集落営農の取り組みが必要であることが理解されました。

今後も振興センターは、集落営農組織の設立に向け、集落での話し合いや先進事例研修などを通して支援していきます。

市場事故をなくそう！
～JA 土佐あき集出荷場 GAP 衛生点検活動から～

JA 職員と普及指導員による衛生点検活動

3 月 4 日に JA 土佐あき園芸課、園芸連安芸駐在所、振興センターの 7 人が市場事故を未然に防ぐため JA 土佐あき園芸集出荷場 10 か所を巡回し、GAP を活用した衛生点検を行いました。

今回は「選果場の床の清掃」、「事務所、トイレの清掃」といった点検項目のほとんどで取り組みができていました。また、「改善した場所をみてもらいたい」と進んで集出荷場職員が同行するなど衛生管理への意識の向上がみられました。

今後も振興センターは、産地の安心・安全の取り組みとして衛生点検活動を引き続き支援します。

JA 東支所管内ナス生産者地区会を開催～めざせ、産地全体のレベルアップ！～

「3 月以降の栽培管理」について説明する普及指導員

3 月 5 日、振興センターは JA 土佐あき営農指導課及び同東支所と連携し、個人出荷者も含めた生産者との情報共有によるナスの産地力強化を目的に、生産者 24 人（うち個人出荷者 13 人）が参加した地区会を開催しました。

振興センターは、環境制御技術先進地事例、フザリウム立枯病対策、3 月以降の栽培管理、害虫としてのクモの防除対策等を紹介しました。生産者からは「炭酸ガス施用技術に関心がある」「クモの生態がよくわかった」等との声が聞かれました。

今後も振興センターは、4 月にも他の地区会及び JA との合同現地巡回を実施し、新技術等の周知を図ります。

農業改良普及推進協議会の開催

チーム長の発表を熱心に聴く協議会員

3月6日、振興センターは今後の普及活動に生かすため、普及推進協議会を開催し、H26年度の各総合課題の実績等について協議を行いました。17名の協議会員の参加で、次年度の普及活動等について有意義な提言をいただき、活発に討論することができました。また、「土佐鷹」や「集落営農」の推進等農家や市町村職員の悩みや疑問等を聞くことができました。

今後も振興センターは、出席者の意見等を参考にし、次年度の普及活動に生かします。

JA土佐あき安芸支部球根部会の現地検討会を開催

これは摘蕾痕が見えにくいきえいねえ

3月9日、安芸支部球根部会がユリの現地検討会を開催し、8人が参加しました。

振興センターは部会員とともにほ場を巡回し、多輪花における摘蕾痕の大きさの確認、伸長しにくい品種の栽培方法、ヒートポンプと重油ボイラーの設定温度について指導しました。農家からは「同一品種でも輸入会社により、伸長差がある」といった意見が聞かれました。

今後も振興センターは、栽培技術の向上を支援します。

技術向上で品質アップ！～唐浜集出荷場ピーマン部会～

「天敵温存植物をウチでも植えてみようか」

3月10日、唐浜集出荷場ピーマン部会（赤ピーマン）を開催し、6戸の農家が参加しました。当部会でのアザミウマ類対策は、普及指導員と研究員とのプロジェクトチームで取り組んできました。勉強会では、振興センターが実証試験の報告を行い、スワルスキーにタバコカスミカメの併用や天敵との相乗効果をねらった昆虫寄生菌であるメタリジウム菌の施用、天敵温存植物スカエボラの有望性が認められ、唐浜版のアザミウマ類防除体系に追加することとなりました。

今後も振興センターは、関係機関や部会と共に病害虫防除や栽培技術の向上による赤ピーマンの品質向上の取組を支援します。

新技術について学ぼう！～安芸集出荷場女性部勉強会～

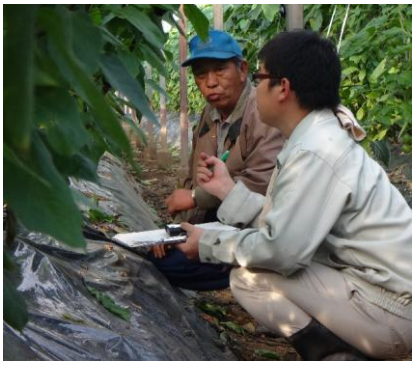
事業を活用して炭酸ガス発生機を入れたいね！

3月10日、安芸集出荷場女性部勉強会が開催され、24人が参加し、安芸集出荷場の新選果機の見学と新技術の講習会を行いました。

講習会では振興センターが環境制御技術の理解を深めてもらうため、植物の光合成や呼吸のしくみについて講習し、炭酸ガスの必要性や効果的な施用方法について説明しました。また、26年度から始まった環境制御技術導入加速化事業について紹介しました。生産者からは「炭酸ガスは良さそう」「事業があるうちに導入したい」という声がありました。

今後も振興センターは、農家の所得向上を目指し、環境制御技術を推進していきます。

環境制御技術導入者への技術指導



測定結果をもとに栽培指導を
行う普及指導員

3 月 17 日、振興センターは安芸市の赤野地区で個別巡回を行い、炭酸ガス施用装置、環境測定装置を導入したばかりのナス生産者 2 名に対し、機器の使い方や環境測定結果をもとにした栽培管理について指導しました。

生産者からは「今まで温度、湿度は簡易測定器で観察していたが、炭酸ガス濃度や飽差についてもパソコンやスマートフォンで簡単に見ることが可能になり、とても勉強になる」との声が聞かれました。

今後も振興センターは、引き続き環境制御技術の普及と生産者の所得向上を支援します。

芸西小学校で花の出前授業＆自作コサージュで卒業式へ

芸西村の花でコサージュづくりをする小学生

3 月 19 日、芸西小学校 6 年生 32 人を対象に花き部会員が講師となり村で生産されている花を使って出前授業を行いました。また、ブルースター部会女性部会 5 人が講師となり、コサージュづくりを指導しました。振興センターは講師の発表資料作成を支援しました。

児童からは「村は花の種類がたくさんあるのですごい」「かわいいのができた」と、地元の花きについて理解を深めることができました。

今後も振興センターは、芸西小学校で行う花の出前授業を花き部会が自主的に開催できるよう支援していきます。

ナス「土佐鷹」の普及推進に向けて

「土佐鷹」の栽培指導を行う普及指導員

3 月 19 日、振興センターは芸西村で県育成品種ナス「土佐鷹」を栽培している 2 人の生産者への個別巡回を行い、栽培管理を指導しました。

生産者からは『「土佐鷹」は秀品率が高く、品質が良い。来作も「土佐鷹」の苗を注文する』との声が聞かれました。

今後も振興センターは、引き続き「土佐鷹」の収量、品質の向上を図るために、栽培技術の指導を行うとともに、部会等で「土佐鷹」の普及推進を行っていきます。